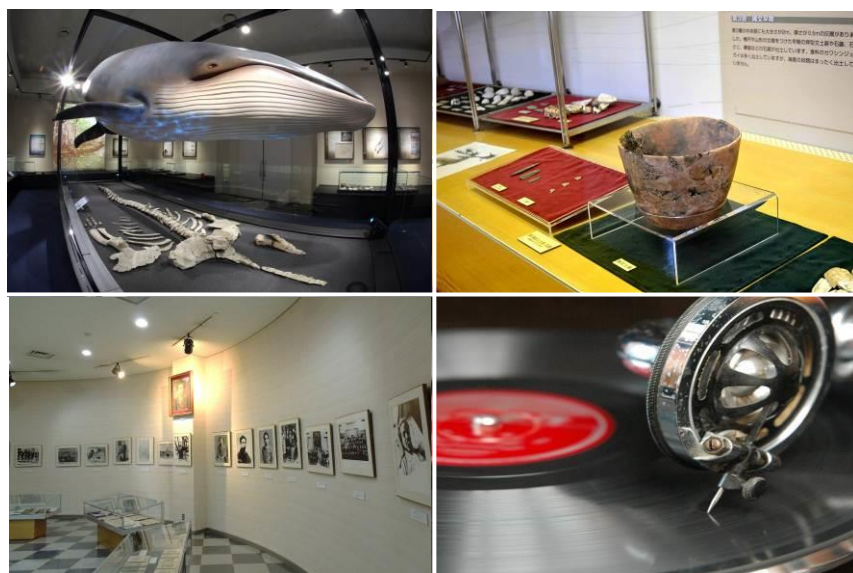


庄原市博物館・資料館の新たな在り方 基本計画（第2期） （平成28～32年度）



平成28年4月
庄原市教育委員会

目 次

はじめに	1
第1章 策定にあたって	
1. 策定の経過	2
2. 策定の趣旨	2
3. 基本計画の位置づけ.....	2
4. 基本計画の期間	2
第2章 第1期計画の成果と課題	
1. 第1期計画の策定について.....	3
2. 成果と課題	3
(1) 庄原市博物館・資料館の再編整備について.....	3
(2) 事業展開の視点について.....	4
3. まとめ	9
第3章 基本目標	
1. 目標達成型の計画策定.....	10
(1) 新たな視点の必要性.....	10
(2) 第2期計画で達成すべき目標.....	11
(3) 計画策定の目的.....	11
2. 施策の基本方針	12
(1) 館運営の基本的業務.....	12
(2) 3大機能の向上.....	12
(3) 連携・啓発の推進.....	13
(4) 連携・啓発の推進と3大機能の向上.....	13
第4章 基本計画	
1. 館固有機能の向上.....	15
(1) 基本的業務の推進.....	15
(2) 連携・啓発の推進.....	17

2. 収集保管機能の向上.....	19
(1) 基本的業務の推進.....	19
(2) 連携・啓発の推進.....	21
3. 調査研究機能の向上.....	23
(1) 基本的業務の推進.....	23
(2) 連携・啓発の推進.....	25
4. 教育普及機能の向上.....	27
(1) 基本的業務の推進.....	27
(2) 連携・啓発の推進.....	29
①教育分野	29
②自治振興分野	31
③産業振興分野	32

第5章 事業評価の基準

1. 定期的な客観評価.....	33
2. 事業評価の視点	33
3. PDCAサイクルの実践.....	33

はじめに

平成 17 年 3 月 31 日に 1 市 6 町が新設合併し庄原市が誕生した。

合併後の庄原市の博物館・資料館のおかれた現状は、施設の脆弱化、人材不足といった要因により、博物館・資料館離れが進行したものであった。こうした中、平成 21 年 12 月に庄原市博物館・資料館運営協議会より「庄原市博物館・資料館の今後のあり方に関する意見書」が提出され、合併後の庄原市内の各施設運営を一体的なものにし、活動方針や運営計画、取り組みの方向性をまとめた「庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画」を策定するに至った。

平成 27 年度、第 1 期計画の最終年度を迎えることから、本庁・各支所・各館と協議を重ね、第 1 期計画の事業実績を取りまとめた「成果と課題報告書」を作成した。その結果、各館・支所・本庁の連携及び市民や市外の専門家も含めた幅広い連携などに課題があることも明らかになった。

こうした状況をふまえ、「館運営の基本的業務」、「3 大機能の向上」、「連携・啓発の推進」といった博物館・資料館の基本運営を推進することを柱として事業展開を図ることで、各館が地域とともに成長し、ともに地域の魅力と価値を高め、「全国に誇れる市民の博物館・資料館」となるよう計画した。特に、2 次計画では、博物館・資料館の総合的な底上げを図る意味でも、3 大機能のうち、調査研究機能の向上を積極的に進める。

上記のような経過を経て、この「庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画（第 2 期）」は、本市の「教育振興基本計画」における児童生徒の教育の実現をめざす重要な位置づけとなるよう、本庁・各館・支所・関係者が会議を重ね、庄原市博物館・資料館運営協議会及び同協議会から選出された策定委員からご意見をいただきながらまとめたものである。

第1章 策定にあたって

1 策定の経過

平成21年度、庄原市博物館・資料館運営協議会より『庄原市博物館・資料館の今後のあり方に関する意見書』が提出された。

これに基づき、平成23年11月、「庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画」（以下「第1期計画」という。）を策定し、実施した。当該計画期間は平成23年度から27年度となっており、最終年度を迎えた。

2 策定の趣旨

第1期計画における成果と課題を整理し、これまでの取り組みの上に新たな視点も加えて「第2期庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画」（以下「第2期計画」という。）を策定し、実施するものである。

3 基本計画の位置づけ

第2期計画は、上位計画である「庄原市長期総合計画」や、本市教育行政における各種施策・事業を総合的かつ計画的に推進するため策定された「庄原市教育振興基本計画」に基づき、事業を展開する。

4 基本計画の期間

この第2期計画は、平成28年度を初年度として、平成32年度を目標年度とする5ヶ年計画とする。ただし、社会・経済・環境・市民意識等の変化に即し、必要に応じて見直しを行うものとする。

第2章 第1期計画の成果と課題

1 第1期計画の策定について

平成17年3月31日の合併以来、庄原市は、博物館2館・資料館7館の計9館（比和自然科学博物館、比和郷土文化保存伝習施設、帝釈峡博物展示施設時悠館、口和郷土資料館、西城歴史民俗資料館、宮田武義記念館、総領郷土資料館、庄原市歴史民俗資料館、倉田百三文学館）を設置・運営していたが、来館者が減少する傾向が続き、「博物館・資料館離れ」が進行している現状が明らかとなった。

また、各施設に配置された職員、各支所教育室、生涯学習課による人的な運営体制の実態は、常設展示活動が中心となっており、消極的な運営状態になっていた。

平成21年度に庄原市博物館・資料館運営協議会より提出された『庄原市博物館・資料館の今後のあり方に関する意見書』では、「施設運営の脆弱化」「博物館・資料館機能の低下」「需要の低下」という3つの大きな課題が指摘された。

平成23年11月、博物館・資料館離れを打開し、3つの課題解決を図り、今後の博物館・資料館の活動を一層充実させていく方策として、「**庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画**」（第1期：平成23～27年度の5ヵ年）を策定し、事業等を実施した。

2 成果と課題

『庄原市博物館・資料館の今後のあり方に関する意見書』において指摘された3つの課題に対して、それぞれ解決のための対策を講じ、事業を展開した。その結果、施設の再編整備や体験メニューによる利用促進など、一定の成果を挙げた事業があった。一方で、博物館・資料館包括担当職員の配置や市民学芸員との連携促進などの、実現に至らなかったり、課題が残った事業もあった。

(1) 庄原市博物館・資料館の再編整備について

① 施設の再編整備

第1期計画は、合併後も継続していた地域単位での活動の枠に縛られず、庄原市全体として連携のとれた活動を実施し、各施設の活動をより充実化する計画とした。

その中では、西城歴史民俗資料館及び総領郷土資料館は収蔵学習室とし、庄原市歴史民俗資料館の付帯施設として位置づけた。宮田武義記念館は西城支所でのコーナー展示等へ変更・改善した。比和郷土文化保存伝習施設についても、比和自然科学博物館の付帯施設とし、整理統合を進めた。

しかしながら、全般的にそれらの施設に収蔵されている資料の活用が十分されているとは言いがたく、各施設の活動の充実には至っていない。その要因としては、各館の充実方策研究不足や、各館と支所・本庁の連携不足、収蔵学習室などの管理形態の曖昧さも挙げられる。

そのため、庄原市博物館・資料館運営協議会の意見を取り入れながら、生涯学習課、各支所教育室、各館の活用研究や更なる連携強化と、収蔵学習室の管理形態の明確化を図る必要がある。

② テーマ特化による活動方針の強化

各館について、計画に沿ってテーマ特化を打ち出し、例えば比和自然科学博物館では展示の刷新等を行い一定以上の成果を挙げたが、各施設間との連携の強化にまでは至っていない。

また、テーマ特化とともに、各館のビジョン・ミッションの見直しや検討、方向性の共有についても十分に行う必要があった。加えて、各館で「教育普及機能」の向上を図った一方で、その裏づけとなる資料収集・整理保管・調査研究の各機能について

も重視する必要があった。

各館ごとにこれからの事業展開の軸足となるビジョン・ミッションを改めて定義し、各館のテーマ特化をさらに進め、今後の活動方針の一層の強化を図らなければならない。

③ 連携体制の構築と博物館・資料館包括担当職員の配置

博物館・資料館包括担当職員の配置には至っておらず、各館・支所・本庁の連携体制構築も十分には進んでいない。担当職員による連絡調整会議についても定期的開催されていない。

綿密な連携体制の構築と、円滑な事業実施が不可欠であり、当初予定した生涯学習課の包括担当職員の役目を担えるよう、学芸員資格を有する職員の配置等について検討が必要である。

さらに、生涯学習課及び各所管部署の役割分担を明確化することで、連携体制の再構築を図る必要がある。

(2) 事業展開の視点について

① 博物館・資料館機能の向上

博物館・資料館機能の低下を防ぎ向上させる視点として、〈1〉消極的教育普及活動から積極的教育普及活動へ〈2〉博物館・資料館活動に対する協力者の育成〈3〉現有資料の有効活用〈4〉利用者と連携した企画という4つの項目で事業展開を行う計画とした。

これに基づき、多くの人にふれることができる丘陵公園や支所での企画展示の実施、ボランティアガイド養成講座の実施、各施設の収蔵資料のデータベース入力、地域イベントへの参画等を実施し、博物館・資料館機能の向上を図った。

その結果、教育普及活動や地域イベントを通して見学者が増加するなど一定の成果がみられたが、巡回展示の充実、ボランティアガイドをはじめ、協力者と連携した観光客の施設利用の促進、データベースの全市的な活用、地域イベントにおける博物館独自の活用計画などに課題が残っている。

第2期計画では事業の着実な実施に向けて、企画展示の魅力的なテーマ選定、ボランティアガイドと観光部局の連携による事業の拡充、一般公開用データベースのホームページ上での公開、専門性を有する多様な人材との連携なども図る必要がある。

② 需要の創出

需要の低下を解決する視点として、〈1〉市民との意思疎通〈2〉情報提供ツールの拡充〈3〉利用手段の提供という3項目により、事業を展開した。

その結果、体験メニューやバスの貸し出し等が利用の促進につながった一方で、統合ホームページの作成、ボランティアガイドや市民学芸員との連携促進やアンケート調査の実施等、実施に至っていない事業もある。

体験メニューは、申し込みが増えているが、本庁対応のものが多く、各館の多様な体験メニューの体系化が進んでいない。各館の出前講座や体験メニューを相互に共有し、全体的なメニュー・手引きの作成を行うとともに、広報紙・各種団体への情報発信及びホームページの充実等、効率的・効果的な情報発信の構築を行い、更なる利用促進を行っていく。

また、利用者のニーズを的確に把握する必要があるとともに、ボランティアガイドをはじめとした協力者がこれまで以上に館運営に関わりやすい仕組みを構築する必要がある。

事業実績評価総括表

【凡例】

○：達成、△：未達成、×：未着手

1. 事業実績評価総括表（全体事業）

区分	内容	事業名称	達成度	成果と評価	課題と対応
全体事業の展開	博学連携事業の展開 （小中学校）	体験メニューの作成	○	近年の埋蔵文化財調査に対応した埋蔵文化財関係の体験メニューの作成・強化により、学校における博学連携事業の活用促進につながった。	各館の多様な体験メニューの体系化が出来ていない。また、高校との連携が欠如していた。全館の体験メニューを体系化した手引きの作成を行うとともに、小・中・高の各カリキュラムに応じた事業展開を図る。また、市内へ新任・転任した先生方に対する市内博物館・資料館・文化財の見学等、研修機会の制度化や充実を図る。市内4つの高校と連携して各校の特性に応じたメニューを作成することについても各館で検討する。
		手引きの作成・配布	○	手引き配布により、埋蔵文化財関係メニューの活用促進につながっている。	博物館・資料館活用に関する教員との研究会（市教研）は、開催分野が限られている。博物館・資料館活用に関する教員との研究会開催について、各種分野で開催する。よりよい手引きとなるよう、各学校との協議をさらに進める必要がある。
		博物館・資料館バス貸出し	○	博物館・資料館のみならず市内の文化財を活用した授業の実践につながっている。	バスの移動時間を有効に活用できる体験メニューについても検討を進め、さらなる利用促進を行っていく。
		出前講座の実施	○	毎年申し込みが増加しているが、本庁対応の件数が多い。口和郷土資料館ではレコードコンサート、体験教室、出張映画、蓄音機体験等を実施した。	各博物館・資料館の出前講座のメニューが学校現場に周知できていない。学校現場のニーズに対応した体験メニューの開発を進めるとともに、各学校に対してより積極的に利用促進する必要がある。
		実物資料教材の貸出し	○	毎年申し込みが増加している。	貸し出し教材が埋文関係のレプリカ等に限定されている。貸し出しメニューについて博物館利用の手引書を作成するとともに、利用促進及び情報発信について検討する必要がある。
	博学連携事業の展開 （大学）	大学構内における広報活動・展示活動	○	新入生へ市内博物館資料館の周知ができた。	大学構内を活用した資料展示等について検討する必要がある、大学との連携強化が必要である。
		大学講師による市内での講座の開催	○	近年では時悠館の古瀬清秀氏講演会、比和自然科学博物館の沖村雄二コレクション展等を開催した。	各博物館において広島大学・県立広島大学とのさらなる連携強化を図るとともに大学だけでなく様々な専門性を有する研究者等との連携を進めていく。
		施設利用に関する制度面の整備	○	キャンパスメンバーズ制度により、平成26年度は、広島大学49人、県立大学145人の利用が図られた。	キャンパスメンバーズ制度について、さらなる周知が必要である。
		博物館と大学による共同研究の実施	×	大学組織との共同研究は進んでいないが、個々の研究者レベルでは各種連携が進んでいる。	各博物館において大学だけでなく様々な専門性を有する研究者との連携を進め、各館の調査研究機能の向上を図る必要がある。
	地域連携事業の展開	ボランティアガイド養成講座	○	育成したガイドの活躍の場が限られ、観光客の施設利用者に対するものとはなっていない。	観光部局と連携し養成後の活動の場の確保に努め、登録ガイド情報の外部発信を図る。更に、上記のほかにも博物館・資料館見学や体験学習への参加等利用促進を図るため市内の各種団体や市民に対する効果的な情報発信を行

				い、活動の充実をめざす。
	観光イベントへの参画	○	国営備北丘陵公園（口和郷・西城収）、庄原駅前フェスタ（口和郷）、鮎の里、休暇村吾妻山での観光イベントに参画している。	現状では連携先が限られている為、より多くの連携を図るように引き続き観光イベントの実施について観光部局と協議を行う。
市民学芸員の育成	市民学芸員養成講座	△	比和自然科学博物館において市民レベルでの協力者を得ている。	ボランティアガイドをはじめ市民の幅広い層の協力を得て館運営を図るための仕組みを構築するとともに、市民主体の活動組織の育成を図る。また、人材活用の仕組みについて検討する。
展示室の再整備	常設展示の更新	△	懸案であった地学分館のオープンは一定の成果があった。	展示更新が一部の施設にとどまっている。市全体での計画的な更新が必要である。
	収蔵学習室の整備	△	収蔵棚の設置を行い、資料整理を進め収蔵学習室として整備した。	収蔵は進んだが、学習室としての機能は進んでいない。各館の収蔵資料の活用に向けた全体的な検討が必要である。
企画展示の充実	企画展示の充実	△	田園文化センターや西城支所でパネル展示を実施している。また、丘陵公園と共同でたたら展示を企画実施している。	各支所の巡回展示が十分には進んでいない。市内の資料を活かした企画展示のさらなる検討が必要である。
データベースによる資料整理	データベースの入力作業	△	平成 23 年現在の民俗資料のデータベース入力は概ね完了した。システム上、共有化は図られていない。	入力時点以降の更新がされていない。データベースの完全統合も完了しておらず、各館において常時更新を図る必要がある。比和自然科学博物館は、膨大な自然科学系資料をどう整理するかが課題である。
	データベースの活用	△	本庁において市全体での資料検索が可能な体制は整ったが、全市の活用が図られる体制は整っていない。	一般公開用データベースは作成できておらず、重要資料についてはホームページ等での公開の方法を検討する。
博物館・資料館アンケートの実施	来館者アンケート調査	△	一部施設で来館者アンケート調査を実施したが、各施設での統一的なアンケート調査票は作成できていない。	利用者の意見を反映させた館運営は不可欠であるが、魅力ある展示活動となっているか、内部的な業務見直しが先決である。その上で、利用者のニーズを的確に把握する仕組みについて引き続き検討する必要がある。
	事業別アンケート調査	×	達成できていない。	事業評価の手段としてのアンケートの内容について継続して検討する必要がある。
博物館・資料館事業の PR 活動の充実	ホームページの統合・更新	×	統合ホームページを新設する計画であったが、達成できていない。	利用者にとってわかりやすく興味関心を惹くホームページを開発できておらず、次期計画に向けて十分な検討が必要である。
	WEB 博物館の構築	×	展示資料・収蔵資料の公開や教材の提供を図るため、観光ナビとの連動を進めているが、WEB 博物館はできていない。	WEB 博物館に求められる内容の検討とともに、その必要性についても抜本的に考える必要がある、また、観光協会ホームページ「観光ナビ」の効果的な活用について協議を行う。
	配布資料の刷新	○	各館の特徴を表したパンフレットは、利用ニーズが非常に高く、随時増刷して対応している。	観光部門と連携した活用についても検討すべきである。
	博物館・資料館のガイダンス設備の設置	×	庄原市歴史民俗資料館内へのガイダンス設備の設置に至っていない。	各館の展示更新を経る中で、庄原市歴史民俗資料館におけるガイダンス機能の確保を図る。また、当該手法に限らず、効果的な PR 方法の充実を図り、PR を市内の観光施設で行う。
	博物館・資料館の案内標識の設置	△	時悠館と比和自然科学博物館については設置できているが、庄原市歴史民俗資料館等の案内標識は既存の看板のままとなっている。	実地確認の上、今後も必要に応じて増設、新設について検討する。

【凡例】

○：達成、△：未達成、×：未着手

2. 事業実績評価総括表（個別事業）

区分	内容	事業名称	達成度	成果と評価	課題と対応
個別事業の展開	比和自然科学博物館・地学分館 比和文化保存伝習施設	自然・科学へのテーマ特化	○	地学分館がオープンしたことにより、今までの動植物に加え、化石・鉱物も充実した展示になり、より特化した博物館の位置づけはできた。また2年に1回の特別展や講座等を開催し、館外活動も継続的に活動した。	広島県で唯一の自然史系博物館という特性を生かしての講座・体験教室は実施してはいるものの、市内外へのPR活動が不足している。ホームページ・企画展や講座等を活用しながら情報発信を実施していき、より高い位置づけを行う。
		地学分館開設に伴う運営体制の整備	○	複合施設として一括整理を行った。	比和郷土文化保存伝習施設のうち展示施設部分が博物館の施設となったため、自然系の展示とともに比和町内の歴史民俗関係の展示についても実施していく。
		専門的知識を持つ人材の確保	○	インストラクター、化石集談会と連携し、博物館公開講座などを行った。企画展などにおいてもインストラクター協力のもと、実施している。	自然系の研究者が少ないため、理科系教員を中心に講演会や講座をとおして関係強化を図るとともに、博物館活動を連携して実施できるよう計画する。
		地域連携による教育普及活動の展開	△	地域イベントを通して見学者が増加するなど、地域の中では浸透していると考えられる。	地域イベントと協力して実施はしているが博物館独自活用事業の計画は行われていない。博物館から積極的に地域連携事業の展開を図る。
	帝釈峡博物展示施設 時悠館	考古・歴史へのテーマ特化	○	当館と旧帝釈郷土館の収蔵庫に、市内の遺跡から発掘された出土遺物の一部を搬入し保管している。	国定公園帝釈峡・帝釈峡岩陰遺跡群といった立地の強みを活かすとともに、市内全域の重要遺跡資料にかかる活用方針についても検討を要する。
		まほろばの里との一体的管理運営	△	「帝釈峡ウォーク」などイベント会場としての利用があった。市史跡「鬼橋野路古墳」の現地学習も行われた。	帝釈峡まほろばの里と一体的管理運営を行っているが、管理面積が広大なため、現職員体制では管理運営が多大な負担となっている。商工観光課と連携した事業展開を図る。
		地域連携による教育普及活動の展開	△	東城町ボランティアガイド会との連携により、観光面での活用があった。	東城町観光ボランティアガイド会は観光名所に詳しい地元有志の集まりで、個々のガイドの手配は帝釈峡観光協会が行っている。今後の連携体制のあり方について引き続き検討する必要がある。
		動物標本資料の整理	×	動物標本資料の台帳は作成しているが、処分活用計画を立てられていない。	動物標本資料の台帳は作成しているが処分活用計画を立てていないため、旧帝釈郷土資料館の動物標本資料に加え、時悠館で展示している動物標本資料の劣化具合も確認し、処分活用計画を検討する。
	口和郷土資料館	音響・映像へのテーマ特化	○	アンプコンサート及び映画鑑賞では多くの来客があった。資料収集を行い、展示に活用した。	資料館の特色である音響・映像関係資料と他の民俗資料を併せて活用していくよう再検討する。
		クラスターのまちづくり基本計画と連携した施設の利活用	○	ふれあいの丘秋のコンサートを行い、市内外から多くの来客があった。クラスター事業とあわせて施設の利活用を図った。	クラスター計画は終了したがこれまでの音の里構想を引き続き、次の計画に生かしていく。
		管理運営体制の確立	△	基本計画と併せた人材確保を図ったが、人材育成計画は立てられていない。	館運営の将来を担う人材の確保・育成が急務となっており、人材確保を計画的に実施する必要がある。ボランティアガイド養成講座との連携を図る。
		入館料の徴収	×	実施にいたっていない。	博物館・資料館の入場料は、必要性も含め引き続き検討する必要がある。

西城歴史民俗資料館 宮田武義記念館	庄原市歴史民俗資料館の付帯施設化	○	平成 24 年度より庄原市歴史民俗資料館の付帯施設となった外部での企画展示等で資料が活用されている。	西城支所に隣接しているが庄原市歴史民俗資料館の付帯施設となっているため、管理形態があいまいである。収蔵学習室として利活用の推進を図るために、支所管理としていくのが望ましく、関係部署間での所管・連携のあり方及び庄原市歴史民俗資料館との関係等について再検討が必要である。
	たたら資料等特徴的な資料の活用	△	丘陵公園でのたたらイベントに合わせて毎年実施し、来園者に広く情報発信できたが、他の施設へは普及できていない。	館外での企画展示を継続的に実施するため、関係施設と引き続き協議を行う。
	宮田武義関連資料の活用	△	西城支所内に宮田武義コーナーが整備されたが、全市的には公開できていない。	コーナー整備後の定期的な展示の更新が十分には行われていない。価値ある書画類の有効活用の方法について、関係部署間で所管・連携のあり方及び庄原市歴史民俗資料館との関係等について十分な検討が必要である。
総領郷土資料館	庄原市歴史民俗資料館の付帯施設化	○	平成 24 年度より庄原市歴史民俗資料館の付帯施設とした。 小学校の授業等で見学があり、活用されている。	総領支所に隣接しているが庄原市歴史民俗資料館の付帯施設となっているため、管理形態があいまいである。収蔵学習室として利用活用の推進を図るために、各支所管理としていくのが望ましく、関係部署間での連携のあり方について再検討が必要である。
庄原市歴史民俗資料館 倉田百三文学館	総合・民俗へのテーマ特化	×	総合・民俗へのテーマ特化を図ったが、常設展示更新計画が進んでいない。	総合・民俗のテーマ特化施設としての明確な位置づけとともに、庄原市全域の特徴的な資料を活用した常設展示の更新、企画展を行なうための協議・検討を行い、着実に常設展示のリニューアルを果たす必要がある。 庄原市内の書画類のデータベース化を実施し、芸術分野の展示にも対応できる体制を早急に整える必要があり、休校・廃校施設等を活用した収蔵施設の整備も検討すべきである。これら芸術分野に関する業務については、所管の再検討の余地もある。
	展示の更新・ガイダンス設備の設置	△	ガイダンスの設置に至っていない。	化石資料の移動に併せて常設展示室の更新を進める計画であったが、達成できていない。常設展示のリニューアルに向けた計画を進める中で、より効果的に市内全体を紹介できるガイダンス機能の内容について十分検討する。
	倉田百三講習会の開催	△	平成 23 年度に実施したが、それ以降「倉田百三」を題材とした専門講座は開かれていない。	「倉田百三友の会」は、数名の構成員で存続しているが、活動は年 1 回の墓前祭の実施にとどまっている。平成 25 年度からは、市教委（倉田百三文学館）の呼びかけで年数回交流の場を設定し、意見交換・情報交換、講演会の共催等をおこなっている。倉田百三に関する解説を行なえる人材の育成を図る取り組みとして今後も継続するとともに、百三関係資料の積極的な活用を図る。

3. 事業達成率総括表

達成度表示	区分	件数	割合
○	達成	19 件	44%
△	未達成	16 件	37%
×	未実施	8 件	19%

3. まとめ

達成できた事業の特徴をみると、体験メニューや出前講座、施設の再編整備やテーマ特化に関するものなど、教育普及活動を中心とした全体事業及び各館固有の個別事業に集中した。

一方、未達成・未着手の事業をみると、大学との連携、地域連携による教育普及活動など、各館・支所・本庁の連携を要する事業、あるいは市民や市外の専門家も含めた幅広い連携を要する事業に集中する傾向があった。

また、第1期計画の実施において不十分だったこととして、①各館における活動方針またはビジョン・ミッションについての明確化の不足、②資料収集・整理保管・教育普及・調査研究の各主要機能の不均衡の是正を図る業務検討の不足、③各館・支所・本庁における連携体制の不足を挙げることができる。

第2期計画の策定においては、達成できた事業のさらなる改善とともに、このような反省点も十分に踏まえ、事業の確実な達成に向けた新たな戦略も必要である。

◆入館者数の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
比和自然科学博物館 H24：地学分館オープン H26：比和郷土文化保存伝習施設の設置管理条例を廃止 H27：比和郷土文化保存伝習施設を統合	1,655	1,605	2,704	1,837	1,545	1,333	3,475	4,071	3,786
帝釈峡博物展示施設時悠館	4,161	4,169	4,460	3,861	2,949	2,991	2,767	2,967	2,736
口和郷土資料館 (※週3日開館)	1,509	2,896	3,060	2,813	2,263	2,547	2,105	2,444	2,083
庄原市歴史民俗資料館 倉田百三文学館 (田園文化センター利用者の5%として算出)	1,831	1,578	1,583	1,532	2,153	2,342	3,032	3,062	2,920
(西城収蔵学習室) H23：西城支所内に宮田武義コーナー設置 H23：西城歴史民俗資料館・宮田武義記念館の設置管理条例を廃止 H24：西城歴史民俗資料館を庄原市歴史民俗資料館の付帯施設として統合	237	125	217	198	188	327	248	(52)	(55)
(総領収蔵学習室) H23：総領郷土資料館の設置管理条例を廃止 H24：総領郷土資料館を庄原市歴史民俗資料館の付帯施設として統合	126	194	120	120	95	38	31	(53)	(22)
	9,519	10,567	12,144	10,361	9,193	9,578	11,658	12,544	11,525

(単位：人)

第3章 基本目標

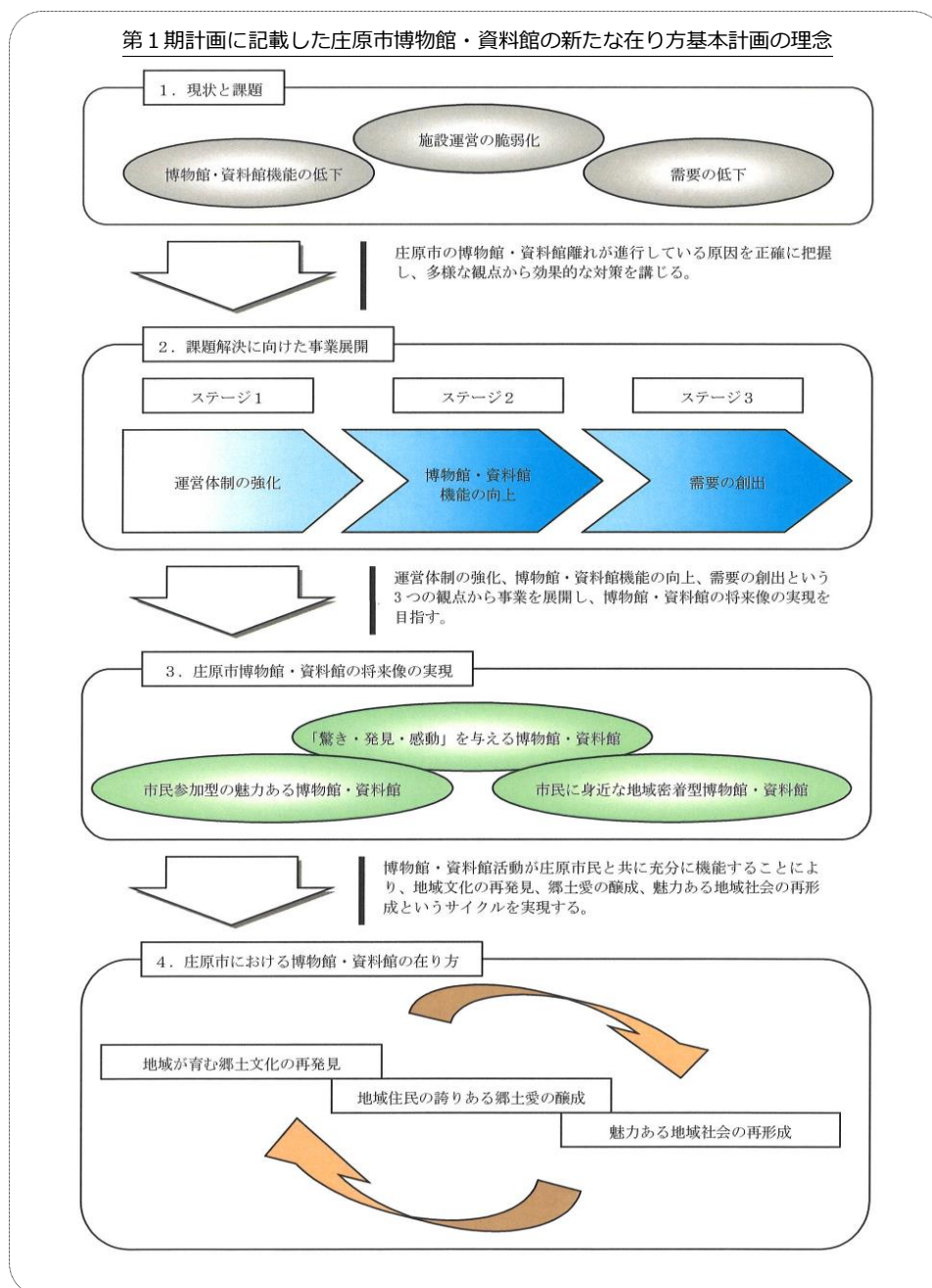
1 目標達成型の計画策定

(1) 新たな視点の必要性

第1期計画において計画策定の契機となったのは、合併直後から懸案となっていた、博物館・資料館離れという現状、あるいは施設運営の脆弱化、博物館・資料館機能の低下、需要の低下という課題であった。

このような中、第1期計画では、課題解決を中心とした計画策定を進め、3つのステージ（1. 運営体制の強化、2. 博物館・資料館機能の向上、3. 需要の創出）からなる、課題解決のための事業を展開する計画とした。

しかし、第1期計画の成果と課題において、未達成の事業があることや、個別的な事業展開に陥りやすかったことなどから、第2期計画の策定においては、課題解決の視点に加え、新たに「目標達成」の視点も重視する方向とした。



(2) 第2期計画で達成すべき目標

第1期計画で把握した現状・課題が容易には解決できない現実も踏まえ、第2期計画においては、課題達成に加え、「目標達成型」の視点も重視して策定を進めた。

具体的には、第1期計画に記載した3つの将来像（①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館、②市民参加型の魅力ある博物館・資料館、③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館）を、全館共通の達成すべき目標として捉え直し、目標達成のための事業を展開する。

加えて、「全国に誇れる市民の博物館・資料館」を、目標達成に向けた全館共通のコンセプトとして掲げ、衆知を集めることで、計画の強力かつ着実な推進を図る。

第2期計画の3つの目標	①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館
	②市民参加型の魅力ある博物館・資料館
	③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館
目標達成に向けたコンセプト	全国に誇れる市民の博物館・資料館

(第1期計画に記載した庄原市の博物館・資料館の3つの将来像)

- (1) 「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館
継続的な調査研究活動・多様な教育普及活動・魅力ある情報提供を充実させ、利用するごとに新たな驚き・発見・感動を与えることができる博物館・資料館を目指す。
- (2) 市民参加型の魅力ある博物館・資料館
市民の意見を運営に反映させ、市民が博物館・資料館活動の中に参加することで、より積極的に郷土の魅力を利用者に発信できる博物館・資料館を目指す。
- (3) 市民に身近な地域密着型の博物館・資料館
観光イベントや郷土文化の学習を通じて、地域との連携の中で事業を展開していくことで、市民にとって身近で気軽に利用できる博物館・資料館を目指す。

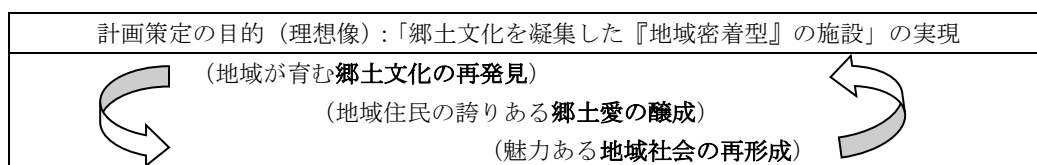
(3) 計画策定の目的

第1期計画においては、「庄原市における博物館・資料館の在り方」を、「郷土文化を凝集した『地域密着型』の施設」であるとして位置づけた。

また、各館が果たすべき3つの役割（地域が育む郷土文化の再発見、地域住民の誇りある郷土愛の醸成、魅力ある地域社会の再形成）を定め、実現に努めるとした。

これらは、地域密着型の各館の活動が十分に機能することで、「郷土文化の再発見→郷土愛の醸成→地域社会の再形成」という循環サイクルの形成を志向したものである。

第2期計画では、当該サイクルの着実な循環による理想像の実現を、計画策定の目的として改めて位置づけることで、第1期計画で掲げた理想を継承し、新たに上記コンセプトを加えて実現を図るものとする。



(第1期計画に記載した庄原市の博物館・資料館の3つの役割)

- (1) 地域が育む郷土文化の再発見
庄原市には242件もの史跡や天然記念物をはじめとする指定文化財、帝釈峡や比婆山にみられる自然、たたら・山城跡などの遺跡が身近に、数多く残っている。博物館・資料館の活動は、そのような身近にありながらも接することの少ない自然・文化遺産を魅力的に紹介し、学ぶ機会を提供する。
- (2) 地域住民の誇りある郷土愛の醸成
庄原市がこれまで遺してきた自然・文化遺産に触れ、その歴史の価値を理解することで、自分の育った町に対し愛着を持ち、郷土文化を継承したいという郷土愛を育む場として機能する。
- (3) 魅力ある地域社会の再形成
地域と連携した取り組みを実施していく中で、市民が新たな郷土文化の在り方について考え、魅力的な地域社会を積極的に形成できるよう支援する場として機能する。

2. 施策の基本方針

(1) 館運営の基本的業務

第1期計画では、各館の運営に関する基本的業務の充実に向けた事業を明記していなかった。また、当該業務を調整する博物館・資料館包括担当職員も配置できていない。

しかし、博物館の運営にも「経営」という概念は必要であり、顧客満足度につながる館運営の基本的業務は、きわめて重要である。

第2期計画においては、各館の運営上、確実に取り組まなくてはならない各館の業務とその目標を明確化し、目標達成型の館運営に向けた、基本的な仕組みを構築する。

なお、博物館・資料館包括担当職員の専任配置は今後も検討を行っていくが現状は厳しく、当面は学芸員資格を有する職員の本庁への複数名配置によってカバーする。当該業務を、所管課の事務分掌として明確化するとともに、各館・支所・本庁の事務分掌も明確化し、管理運営体制を確立する。

体系区分	事業の分類区分
基本的業務	<ul style="list-style-type: none">・各館のテーマ及び方針の明確化・各館・支所・本庁が連携した管理運営体制の確立・ニーズを反映した親しみやすい館運営と施設管理

(2) 3大機能の向上

第1期計画では、資料収集・整理保管・教育普及・調査研究の各主要機能を掲げ、「全ての機能の向上を主軸とする事業展開」を掲げた。

しかし、教育普及に関する常設展示以外の活動は、十分に進まなかった。

このため、各主要機能に基づく体系の中に各事業を明確に分類し配置し直すことで、主要機能の均衡ある向上に向けた、安定的な仕組みを構築する。

第2期計画においては、資料収集・整理保管を、資料を取り扱う一体的業務であることから「収集保管」機能として統合し、収集保管・調査研究・教育普及からなる3大機能として向上を図ることで、より体系的かつ集約的な事業展開の基盤とする。

特に、収蔵資料を再編集し新たな価値を創造していく調査研究活動は、館活動の中核的業務といえるもので、各機能の全体的な底上げを図る上でも不可欠であることから、調査研究機能の向上にむけた取り組みを積極的に進める。

体系区分	事業の分類区分
収集保管機能	<ul style="list-style-type: none">・テーマに基づく系統的な資料収集・収蔵資料の整理と保存・資料の記録管理及び貸出
調査研究機能	<ul style="list-style-type: none">・テーマに基づく資料の調査研究・展示及び運営に関する調査研究・周辺の自然・歴史・文化に関する調査研究
教育普及機能	<ul style="list-style-type: none">・テーマに基づく展示の充実と更新・学習支援の充実・情報発信

(3) 連携・啓発の推進

第1期計画では、博物館・資料館離れの打開、施設運営の脆弱化等の各課題の解決を目指したが、そのために不可欠となる多様な主体との連携が十分には進んでいない。

今後、館独自の努力や、各館・支所・本庁の連携のみならず、教育機関や市民を含めた連携相手との協力が、一層重要となってくる。また、観光産業との結びつきを考慮した活性化も求められる。

第2期計画においては、連携・啓発の推進を館運営の重要課題と捉え直し、市民や、広く市外の専門家も含めた強力な連携体制の構築に向けた、実践的な仕組みを構築する。

体系区分	事業の分類区分
連携・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関と連携した館運営 ・市民と連携した館運営 ・産業と連携した館運営

(4) 連携・啓発の推進と3大機能の向上

第2期計画においては、館固有機能及び3大機能を一方の軸とし、基本的業務及び連携・啓発をもう一方の軸として、博物館・資料館事業を偏りなく、体系的に位置づけ直すことで、「全国に誇れる市民の博物館・資料館」に向けた、戦略的な仕組みを構築する。

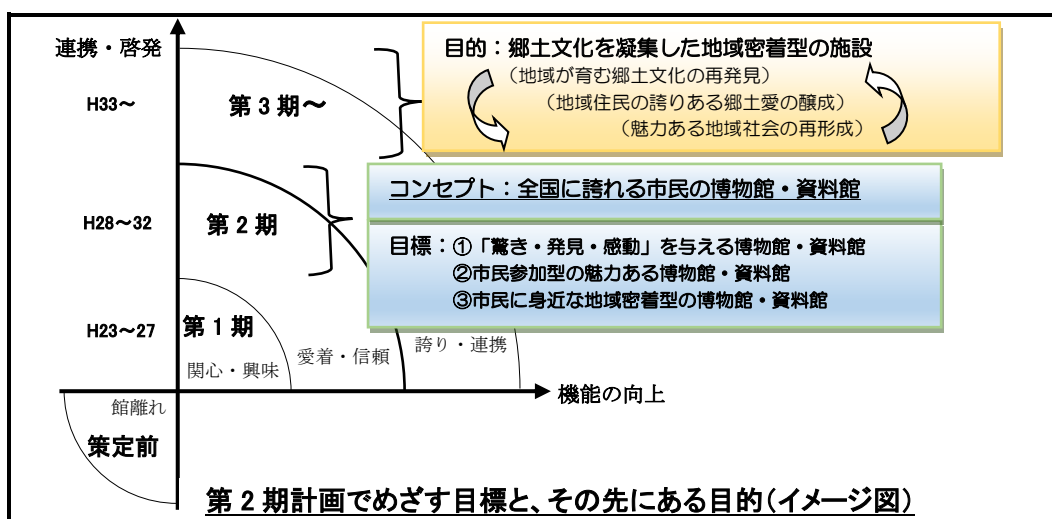
特に、多様な主体との連携を進める上で、教育・自治振興・産業振興という3つの分野との連携を主眼に置いて、分野別の事業の体系化を強力に推進していく。

教育分野では、博物館・資料館活動が地域の教育を充実・発展させていくという観点から、教育機関等との連携を進め、学ぶことの素晴らしさを誰もが享受できる、教育や生涯学習の町づくりに資する。

自治振興分野では、博物館・資料館活動が地域の価値を高めていくという観点から、ファン層・協力者層を広げて地域連携を進め、子供から大人まで誰もが活躍できる市民が主役の町づくりに資する。

産業振興分野では、博物館・資料館活動が地域の魅力を高めていくという観点から、観光や農林業との連携を進め、市外の人知ってもらい、来てもらい、好きになってもらえる町づくりに資する。

なお、連携・啓発の推進に不可欠といえる市民からの信頼・愛着の獲得は、一朝一夕になせるものでなく、長期の経営努力なくして成し得ない。当面は、第1期計画の実施を通じて一定程度の充実が図られた教育普及機能に関して、連携分野別の体系化を進める。



	館固有機能	3大機能		
		収集保管機能	調査研究機能	教育普及機能
基本的業務	<p>(1) 館運営の基本的業務</p> <p>ア. 各館のテーマ及び方針の明確化</p> <p>イ. 各館・支所・本庁が連携した管理運営体制の確立</p> <p>ウ. ニーズを反映した親しみやすい館運営と施設管理</p> <p>1. (1) …p15</p>	<p>(2) 3大機能の向上</p> <p>ア. テーマに基づく体系的な資料収集</p> <p>イ. 収蔵資料の整理と保存</p> <p>ウ. 資料の記録管理及び貸出</p> <p>2. (1) …p19</p>	<p>ア. テーマに基づく資料の調査研究</p> <p>イ. 展示及び運営に関する調査研究</p> <p>ウ. 周辺の自然・歴史・文化に関する調査研究</p> <p>3. (1) …p23</p>	<p>ア. テーマに基づく展示の充実と更新</p> <p>イ. 学習支援の充実</p> <p>ウ. 情報発信</p> <p>4. (1) …p27</p>
	<p>(3) 連携・啓発の推進</p> <p>ア. 教育機関と連携した館運営</p> <p>イ. 市民と連携した館運営</p> <p>ウ. 産業と連携した館運営</p> <p>1. (2) …p17</p>	<p>(4) 連携・啓発の推進と3大機能の向上</p> <p>ア. 教育機関と連携した収集保管の推進</p> <p>イ. 市民と連携した収集保管の推進</p> <p>ウ. 産業と連携した収集保管の推進</p> <p>2. (2) …p21</p>	<p>ア. 教育機関と連携した調査研究の推進</p> <p>イ. 市民と連携した調査研究の推進</p> <p>ウ. 産業と連携した調査研究の推進</p> <p>3. (2) …p25</p>	<p>ア. 学習プログラムの充実と体系化</p> <p>イ. 教育機関と連携した教育普及の推進</p> <p>4. (2)①…p29</p> <p>ア. 市民による教育普及の推進</p> <p>イ. ボランティアガイド養成講座の開催</p> <p>4. (2)②…p31</p> <p>ア. 観光イベントへの参画</p> <p>イ. ボランティアスタッフによる館外活動</p> <p>ウ. ガイダンス機能の向上</p> <p>4. (2)③…p32</p>
	<p>教育分野</p> <p>自治振興分野</p> <p>産業振興分野</p>			
連携・啓発				

第4章 基本計画

1. 館固有機能の向上

(1) 基本的業務の推進

この取り組みによって達成する目標

- ①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館
- ③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館

①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館、③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館の達成に向けて、**館固有機能の向上のための基本的業務**を推進する。

そのための取り組みとして、館運営の基盤の強化を図り、各館・支所・本庁の連携を進め、目標と課題を共有する。また、各館の明確な運営方針を定めることで、親しみやすく魅力的な博物館・資料館への足がかりとする。

これらによって、目標達成型の館運営のための基本的な仕組みを構築し、「全国に誇れる市民の博物館・資料館」の実現を図る。

強化する領域
館固有機能
×
基本的業務

ア. 各館のテーマ及び方針の明確化

各館が社会的に果たしていくべき目的（ミッション）、館として目指す状態（ビジョン）を明確化するとともに、館のテーマの確認を改めて行う。それらに基づいて運営方針（基本的業務、収集保管、調査研究、教育普及、連携推進）を定める。

イ. 各館・支所・本庁が連携した管理運営体制の確立

各館・支所・本庁の役割分担と事務分掌を明確化し、管理運営体制を確立する。また、各収蔵学習室の施設管理及び資料活用に係る業務をマニュアル化し、支所・本庁の連携の強化を図る。これらを確実に実施するための連絡調整会議を定期開催する。

ウ. ニーズを反映した親しみやすい館運営と施設管理

利用者のニーズを的確に把握する仕組みについて検討を進め、展示や各種行事などの具体的な館運営に反映させる。

観光客等の誘導を促進する案内標識等の増設・新設は、実地確認のうえ必要性を検討し、計画的に実施する。また、利用者の利便性を高めるための館内照明のLED化等、施設管理の向上を図る。

現在実施している博物館のキャンパスメンバーズ制度について、さらなる周知・広報活動を行う。さらに市内高等学校等の利用促進を図る優遇措置を検討し、実施する。

◆事業計画

事業区分	事業内容	H28	H29	H30	H31	H32
ア. 各館のテーマ及び方針の明確化	ビジョン・ミッションの明確化及びテーマの再確認と事業実施	---	→	→	→	→
	運営方針の決定と事業実施	---	→	→	→	→
(口和郷土資料館)	・親しまれる愛称の選定	---	→	→	→	→
イ. 各館・支所・本庁が連携した管理運営体制の確立	各館・支所・本庁の役割分担と事務分掌の明確化	●●				
	連絡調整会議の定期開催					→
(各収蔵学習室)	・施設管理及び資料活用に係る業務のマニュアル化	●●				
ウ. ニーズを反映した親しみやすい館運営と施設管理	利用者ニーズの把握及び具体的な館運営への反映					→
	案内標識等の増設・新設					→
	LED化等、施設管理の向上(長寿命化及び改修を含む)					→
	キャンパスメンバーズ制度の周知・広報					→
	市内高等学校等の利用優遇措置の検討と実施	---	→	→	→	→
凡例	--- 検討・計画	●● 期間内実施	→ 継続的実施			



キャンパスメンバーズ制度の活用（比和自然科学博物館）

(2) 連携・啓発の推進

この取り組みによって達成する目標

- ②市民参加型の魅力ある博物館・資料館
- ③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館

②市民参加型の魅力ある博物館・資料館、③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館の達成に向けて、**館固有機能の向上のための連携・啓発**を推進する。

そのための取り組みとして、各館・支所・本庁の連携はもちろんのこと、教育・研究機関や市民等、さらには観光産業関連組織といった多様な主体との連携を推し進める。

また、様々な主体との連携を進めることで、各館が市民に身近な、歴史・文化・自然に興味を持つ市民同士の交流の場となることを目指す。

これらによって、強力な連携体制のための実践的な仕組みを構築し、「全国に誇れる市民の博物館・資料館」の実現を図る。

なお、熟度を見ながら、各分野との連携・啓発をさらに充実させていく。

強化する領域
館固有機能
×
各分野との連携

ア. 教育機関と連携した館運営

各館において教育機関との連携を積極的に進め、学ぶことの素晴らしさを誰もが享受できる館運営を図り、庄原市教育振興基本計画の実現を目指す。

また、他地域の博物館・資料館や大学・研究機関、専門家等との連携によって館単独では困難な業務を補い、館機能の全体的な向上を図る。

イ. 市民と連携した館運営

ボランティアガイドをはじめ、市民の幅広い層からなる館活動への協力者（以下「ボランティアスタッフ」という。）の協力を得て館運営を図る仕組みを構築するとともに、地域を支えていこうとする市民主体の活動組織と連携し、多様な館活動を通じてともに成長する。

また、各館が市民の気軽に集まれる雰囲気醸成し、人材を登録し活用する仕組みを構築して、市民が主役となる「市民参加型」の館運営を図る。

ウ. 産業と連携した館運営

観光や農林業等、多様な産業分野との連携を積極的に推進し、ともに地域の価値を高めていくことを通じて、地域になくてはならない「地域密着型」の館運営を図る。

◆事業計画

事業区分	事業内容	H28	H29	H30	H31	H32
ア. 教育機関と連携した館運営	教育機関との連携の推進	→				
	研究機関・専門家等との連携による館機能の向上	→				
イ. 市民と連携した館運営	ボランティアスタッフと共に行う館活動の検討及び実施	→				
	市民主体の活動組織と共に行う館活動の協議及び実施	→				
	人材を登録し活用する仕組みの構築（地域版、全市版）	→				
	市民が気軽に集まれる雰囲気醸成	→				
（庄原市歴史民俗資料館）	・庄原郷土史研究会との連携の検討	●	●			
（倉田百三文学館）	・倉田百三友の会との連携	→				
（帝釈峡博物展示施設時悠館）	・郷土史研究サークル等との連携の検討	●	●			
（比和自然科学博物館）	・比婆科学教育振興会との連携	→				
	・庄原市化石集談会との連携	→				
	・客員研究員、インストラクターとの連携	→				
（口和郷土資料館）	・口和郷土資料館後援会との連携	→				
	・球楽達人の会との連携	→				
ウ. 産業と連携した館運営	観光産業組織との連携に関する協議及び事業実施	→				
凡例	----- 検討・計画	●-----● 期間内実施	→ 継続的实施			



地域と連携した愛鳥活動（帝釈峡博物展示施設時悠館）

2. 収集保管機能の向上

(1) 基本的業務の推進

この取り組みによって達成する目標

- ①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館
- ③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館

①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館、③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館の達成に向けて、**収集保管機能の向上のための基本的業務**を推進する。

そのための取り組みとして、テーマに基づき資料を系統的に収集し、分類整理し、適切な環境で管理し、収蔵する。

これらによって、3大機能の均衡ある向上のための安定的な仕組みを構築し「全国に誇れる市民の博物館・資料館」の実現を図る。

強化する領域
収集保管機能
×
基本的業務

ア. テーマに基づく系統的な資料収集

各館のテーマ及び運営方針（収集保管）に基づき、系統的な資料収集を実施する。

イ. 収蔵資料の整理と保存

庄原市教育委員会所蔵資料取扱規則に基づき、各施設において資料等の受入を行い資料管理台帳に記載し、所蔵資料として整理・保存する。これらの事務に連動し、データベースの入力・更新を行って各館・支所・本庁において情報共有する。

日常的に館内外の点検・清掃を行い、有害生物の侵入阻止と駆除に努め、各施設の燻蒸を計画的に行う。

旧帝釈郷土資料館等の動物標本資料、高野地域の民俗資料の保存管理を、有識者の協力を得て進める。また、比和自然科学博物館の自然科学系資料の整理の方法について検討し実施する。

ウ. 資料の記録管理及び貸出

庄原市教育委員会所蔵資料取扱規則に基づき、各施設において所蔵資料等の貸出を行い資料管理台帳に記載して記録管理を行う。また、寄託資料の更新手続きを着実に実施する。これらの事務に連動し、データベースの入力・更新を行って各館・支所・本庁において情報共有する。

◆「収集保管機能」の向上

博物館・資料館の「収集保管機能」とは、収集した資料を半永久的に後世に伝え残すための機能である。すべての館活動は資料が無ければ成立しないことから、博物館・資料館活動の根幹を成す機能といえる。

資料の管理体制を強化するとともに、データベース活用を進め資料の適正な保存管理と簡便な利用を可能にする取り組みを推進し、当該機能の向上を図る。

◆事業計画

事業区分	事業内容	H28	H29	H30	H31	H32
ア. テーマに基づく系統的な資料収集 (口和郷土資料館)	各館の運営方針(収集保管)に基づく系統的な資料収集 ・音響・映像機器収集事業	-----	—————	—————	—————	—————
イ. 収蔵資料の整理と保存	庄原市教育委員会所蔵資料取扱規則に基づく資料等の受入と資料台帳への記載	—————	—————	—————	—————	—————
	所蔵資料等の整理・保存	—————	—————	—————	—————	—————
	データベース入力・更新、共有	—————	—————	—————	—————	—————
	日常的な点検・清掃	—————	—————	—————	—————	—————
	各施設の計画的な燻蒸	—————	—————	—————	—————	—————
	動物標本資料の保存・活用・整理	—————	—————	—————	—————	—————
(高野支所)	・高野地域の民俗資料の保存管理	—————	—————	—————	—————	—————
	・高野収蔵学習室の整備			—————	—————	—————
(比和自然科学博物館)	・自然科学系資料の整理の方法について検討及び実施	●————●				
	・寄贈資料の分類整理	—————	—————	—————	—————	—————
ウ. 資料の記録管理及び貸出	庄原市教育委員会所蔵資料取扱規則に基づく所蔵資料等の貸出と資料管理台帳への記載	—————	—————	—————	—————	—————
	寄託資料の更新	—————	—————	—————	—————	—————
	データベース入力・更新、共有	—————	—————	—————	—————	—————
凡例	----- 検討・計画	●————● 期間内実施	————— 継続的实施			



民俗資料の整理保存（西城収蔵学習室）

(2) 連携・啓発の推進

この取り組みによって達成する目標

- ②市民参加型の魅力ある博物館・資料館
- ③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館

②市民参加型の魅力ある博物館・資料館、③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館の達成に向けて、**収集保管機能の向上のための連携・啓発**を推進する。

そのための取り組みとして、館単独では困難な業務を中心に、ボランティアスタッフをはじめ、多様な市民活動や産業、研究機関等との連携を進め、本物の資料に直接接触れる機会を市民等に提供し、地域と館の強みを活かした館運営へとつなげる。

これらによって、体系的な館運営のための戦略的な仕組みを構築し、「全国に誇れる市民の博物館・資料館」の実現を図る。

なお、熟度を見ながら、各分野との連携・啓発をさらに充実させていく。

強化する領域
収集保管機能
×
各分野との連携

ア. 教育機関と連携した収集保管の推進

大学等の学術調査と連携することにより、テーマに基づく系統的な資料収集を効果的に進め、収蔵資料の利用促進を図る。また、専門家や研究団体等とも連携し、館単独では困難な業務を着実に推進する。

イ. 市民と連携した収集保管の推進

「市民参加型」の館運営を目指し、分野別に関心の異なる市民層に応じて呼びかけを行い、本物の資料に直接接触れる貴重な機会を幅広く提供する。さらに、ボランティアスタッフの募集や人材を登録し活用する仕組みを通じて連携体制の強化を図る。

ウ. 産業と連携した収集保管の推進

「地域密着型」の館運営を目指し、各館のテーマに関連する、地域産業及び地域外の関連産業等に関する重要資料の収集保管及び活用についても積極的に行い、地域と館の強みを活かした館運営へとつなげる。

◆事業計画

事業区分	事業内容	H28	H29	H30	H31	H32
ア. 教育機関と連携した収集整理	大学等と連携した系統的な資料収集	---	→	→	→	→
	専門家や研究団体等との連携	→	→	→	→	→
(比和自然科学博物館)	・現生クジラ骨格標本の漂白整理等	→	→			
イ. 市民と連携した収集整理	収集保管活動を通じて市民が本物の資料に触れる機会の提供	---	→	→		
	ボランティアスタッフと連携した収集整理				→	→
ウ. 産業と連携した収集整理	地域の産業と連携した地域密着型の資料収集	→	→	→	→	→
	関連産業等との連携による系統的な資料収集	→	→	→	→	→
凡例	--- 検討・計画	●—● 期間内実施	→ 継続的实施			



ボランティアスタッフによる昆虫標本整理（比和自然科学博物館）

3. 調査研究機能の向上

(1) 基本的業務の推進

この取り組みによって達成する目標

- ①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館
- ③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館

①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館、③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館の達成に向けて、**調査研究機能の向上のための基本的業務**を推進する。

そのための取り組みとして、各館の収蔵資料や地域資源、今後の展示等についての調査研究を行い、それらの価値を引き出し、館運営に活かし、地域社会に還元することで、地域の価値を高めていく。

これらによって、3大機能の均衡ある向上のための安定的な仕組みを構築し「全国に誇れる市民の博物館・資料館」の実現を図る。

強化する領域
調査研究機能
×
基本的業務

ア. テーマに基づく資料の調査研究

各館のテーマ及び運営方針（調査研究）に基づき、収蔵資料のもつ価値を引き出すための調査研究を進め、その成果を館運営に活かすとともに、ひろく地域社会に還元する。

イ. 展示及び運営に関する調査研究

当市の博物館・資料館が有する、全国に誇るべき収蔵資料について、驚き・発見・感動を与える展示が行えるよう、展示及び運営に関する調査研究を積極的に進める。

ウ. 周辺の自然・歴史・文化に関する調査研究

地域に潜む資源を掘り起こし価値を引き出すとともに、地域自体の価値をも高めていくため、各館が立地する地域の自然・歴史・文化について調査研究する。

◆調査研究機能の向上

博物館・資料館の「調査研究機能」とは、収集された資料に対して調査研究を行う機能である。これによって、資料の価値を引き出し、館の価値を高めるとともに、収集保管機能や教育普及の機能のさらなる向上に繋げていくための重要な機能といえる。

館が収集した資料について研究を行い、その成果を公表していくことで、外部研究者等との連携に繋げる。同時に、新規性のある展示や広報といった教育普及活動に繋げ、地域資源の学術的価値を広く発信する。

◆事業計画

事業区分	事業内容	H28	H29	H30	H31	H32
ア. テーマに基づく資料の調査研究	各館の運営方針(調査研究)に基づく収蔵資料の調査研究	---	→	→	→	→
	調査研究を反映した館運営及び地域還元				→	→
(庄原市歴史民俗資料館)	・教科書等収蔵資料の調査・研究	→	→	→	→	→
(口和郷土資料館)	・収蔵する音響、映像機器に関する調査	→	→	→	→	→
イ. 展示及び運営に関する調査研究	展示及び運営に関する事例調査	→	→	→	→	→
	調査成果を反映した展示及び館運営			→	→	→
(口和郷土資料館)	・音響・映像機器の動態展示にかかる調査研究	→	→	→	→	→
ウ. 周辺の自然・歴史・文化に関する調査研究	地域資源の掘り起こしと調査研究	→	→	→	→	→
	調査成果の地域還元			→	→	→
凡例	--- 検討・計画	●—● 期間内実施	→ 継続的实施			



収集した音響機器類の調査研究(口和郷土資料館)

(2) 連携・啓発の推進

この取り組みによって達成する目標

- ②市民参加型の魅力ある博物館・資料館
- ③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館

②市民参加型の魅力ある博物館・資料館、③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館の達成に向けて、調査研究機能の向上のための連携・啓発を推進する。

そのための取り組みとして、ボランティアスタッフをはじめ、多様な市民活動や産業、研究機関等との連携を進め、収集資料及び地域資源、地域課題等に関する調査研究を進め、その成果を地域づくりや産業振興へ積極的に還元し、市民の財産として共有し、地域の価値を高めていく。

これらによって、体系的な館運営のための戦略的な仕組みを構築し、「全国に誇れる市民の博物館・資料館」の実現を図る。

なお、熟度を見ながら、各分野との連携・啓発をさらに充実させていく。

強化する領域
調査研究機能
×
各分野との連携

ア. 教育機関と連携した調査研究の推進

各館の収集資料をはじめ、当市の広大なフィールドを最大限活用し、大学・研究機関や関連学会、研究者等の力を借りて調査研究活動を進め、収集資料の価値を高める。それとともに、その成果を市民に還元し、庄原市の財産として共有することで地域の教育を充実・発展させていく。

イ. 市民と連携した調査研究の推進

多様な市民活動との接点を広げ、地域課題の解決や地域おこし等、さまざまな見地からの意見を交わすことで、「市民参加型」の調査研究の間口を広げ、ともに地域の価値を高めていく。

ウ. 産業と連携した調査研究の推進

比婆牛のブランド化や帝釈峡の観光振興等、広く地域の産業と連携した「地域密着型」の調査研究活動を推進し、その成果を地域に積極的に還元することで地域の魅力を高めていく。

◆事業計画

事業区分	事業内容	H28	H29	H30	H31	H32
ア. 教育機関と連携した調査研究の推進	研究機関等と連携した収蔵資料の調査研究	→				
	研究機関等と連携した地域資源の調査研究	→				
	調査成果の市民への還元			→		
(比和自然科学博物館)	・自然科学分野調査研究	→				
	・民俗分野調査研究	→				
(口和郷土資料館)	・外部の博物館との連携強化		→			
イ. 市民と連携した調査研究の推進	市民参加型の調査研究	→				
	調査成果の地域社会への還元			→		
(庄原市歴史民俗資料館)	・教科書等収蔵資料の調査・研究	→				
(比和自然科学博物館)	・吾妻山の植物調査	→				
	・比婆山の昆虫調査	→				
	・比婆山の植物調査			→		
ウ. 産業と連携した調査研究の推進	地域産業と連携した調査研究	→				
	調査成果の産業分野への還元			→		
凡例	----- 検討・計画	●—● 期間内実施	→ 継続的实施			



海外研究者と化石集談会によるクジラ化石検討会（比和自然科学博物館）

4. 教育普及機能の向上

(1) 基本的業務の推進

この取り組みによって達成する目標

- ①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館
- ③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館

①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館、③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館の達成に向けて、**教育普及機能の向上のための基本的業務**を推進する。

そのための取り組みとして、魅力的な展示や資料紹介、講演会を開催し、館活動で得られた新知見の発信といった業務を着実に実行し、市民からの信頼・愛着の獲得を目指す。

これらによって、3大機能の均衡ある向上のための安定的な仕組みを構築し「全国に誇れる市民の博物館・資料館」の実現を図る。

強化する領域
教育普及機能
×
基本的業務

ア. テーマに基づく展示の充実と更新

各館のテーマ及び運営方針（教育普及）に基づき、常設展示の充実と更新を図る。

また、収集保管及び調査研究の成果を積極的に活用し、見学者に「驚き・発見・感動」を与える内容となるよう、企画展・特別展等を計画的かつ戦略的に行っていく。

イ. 学習支援の充実

市民が関心をもつ地域資源や地域課題に柔軟に対応し、各館のテーマ及び運営方針（教育普及）に基づく講演会や巡回展示を積極的に行う。

講演会・講座については、聴講者に「驚き・発見・感動」を与え、学ぶことの素晴らしさを広く市民に感じてもらえるよう、内容を精選して計画的に実施する。

巡回展示については、市民と所蔵資料との出会いの場を広げて「地域密着型」の館運営につながるため、本庁・支所庁舎や学校等の身近な公共施設の活用を検討し、パネル展示・スポット展示等を計画的に実施する。

ウ. 情報発信

受け手に「驚き・発見・感動」を与え、身近な情報手段となるよう、マスコミの活用をはじめ、ホームページや冊子・パンフレット等、各館のテーマ及び運営方針（教育普及）に基づく最適な方法を組み合わせ、戦略的な情報発信を展開する。

本格運用に多大な労力を要するホームページは、各館の現実的な運用の範囲で効果的に刷新するものとし、①市ホームページや観光協会等の既存システム利用、②市ホームページへのバナー開設、③ホームページの充実と更新、④リンク先のコンテンツ充実（市史・町史、広報誌等の内容も積極的に活用）といった手順で段階的に発展させる。

冊子・パンフレット等は、各館の特徴に応じた魅力的な内容とし、計画的に発行する。

◆教育普及機能の向上

博物館・資料館の「教育普及機能」とは、展示や各種の催し、情報発信などによって市民の教育に資する機能である。いわば館の顔や声というべき機能であり、館活動の成果を市民に発信し、館の活動を広く市民に認知してもらうため、館は努力を尽くさねばならない。

特に、対外的露出の大きい展示や広報は有効な手段であり、より良い展示や、興味関心を惹く情報発信を継続的に行うことで、当該機能の向上を図る。

◆事業計画

事業区分	事業内容	H28	H29	H30	H31	H32
ア. テーマに基づく展示の充実と更新	各館の運営方針(教育普及)に基づく展示の充実と更新	---	→	→	→	→
	企画展・特別展等の計画と実施		→	→	→	→
(西城支所)	・宮田武義コーナーの定期的な展示更新と書画類の公開	→	→	→	→	→
(帝釈峡博物展示施設時悠館)	・帝釈峡遺跡群や屋外展示物の整備と活用	→	→	→	→	→
(比和自然科学博物館)	・地学分館の展示施設の充実	→	→	→	→	→
	・特別展の開催(隔年開催)	---	●	---	●	---
(口和郷土資料館)	・特別企画展の開催			→	→	→
イ. 学習支援の充実	講演会の計画と実施	→	→	→	→	→
	博物館講座の開催と充実	→	→	→	→	→
	パネル展示の計画と実施		→	→	→	→
	スポット展示の計画と実施		→	→	→	→
ウ. 情報発信	市長定例記者会見等を活用したマスコミへの情報発信	→	→	→	→	→
	観光協会ホームページへのコンテンツ提供	→	→	→	→	→
	市ホームページへのバナー開設	●	●			
	各館ホームページの充実と更新	→	→	→	→	→
	リンク先のコンテンツ充実			→	→	→
	冊子・パンフレット等の計画と作成・発行	→	→	→	→	→
(帝釈峡博物展示施設時悠館)	・帝釈地域の遺跡と自然・文化の案内	→	→	→	→	→
(倉田百三文学館)	・倉田百三に関する印刷物の発行	→	→	→	→	→
	・倉田百三ゆかりの地説明看板等の設置	→	→	→	→	→
凡例	----- 検討・計画	●-----● 期間内実施	→ 継続的実施			



宮田武義コーナー展示更新(西城支所)

(2) 連携・啓発の推進

この取り組みによって達成する目標

- ①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館
- ②市民参加型の魅力ある博物館・資料館
- ③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館

①「驚き・発見・感動」を与える博物館・資料館、②市民参加型の魅力ある博物館・資料館、③市民に身近な地域密着型の博物館・資料館の達成に向けて、**教育普及機能の向上のための連携・啓発**を推進する。

そのための取り組みとして、ボランティアスタッフをはじめ、多様な主体との連携を強化し、ともに活動することを通じて、館の運営や活動の基盤となる幅広い市民層からの信頼と愛着を獲得する。第1期計画で一定の成果を挙げた、各種の体験メニューを通じた普及啓発の手法を改善、応用するとともに、積極的な館外活動を実施することによって、市民の幅広い層に、地域のかげがえない自然・歴史・文化に対する愛着を醸成する。

これらによって、体系的な館運営のための戦略的な仕組みを構築し、「全国に誇れる市民の博物館・資料館」の実現を図る。

①教育分野

ア. 学習プログラムの充実と体系化

各館・支所・本庁で個別に実施してきた体験メニュー・出前講座・資料貸出・バス貸出等を充実・体系化し、学校の授業における施設利用を促進する。また、「本物」に触れる「驚き・発見・感動」を通じて本市の自然・歴史・文化を肌で感じ学べる機会を提供し、「庄原市で学んで良かった」と思える学校教育に資する。

体験メニューは、学校のニーズを十分に把握し、各教科のカリキュラムに応じたものを各館において開発し、継続的に充実を図る。

出前講座は、今後の利用機会の増加を見据え、ボランティアスタッフの協力を得る仕組みを早期に構築し、全市的な展開を図る。

資料貸出は、施設外へ持ち出し可能な資料及び教材を各館において精選し、必要に応じてレプリカ等の二次資料も活用する。

バス貸出は、各学校・各館・支所・本庁が連携して、全市の学校の幅広い利用機会を確保する。

強化する領域
教育普及機能
×
教育分野

イ. 教育機関と連携した教育普及の推進

各館・支所・本庁による学習プログラムを分かりやすく解説した「手引き」を作成・配布して学校における利用を促進し、各施設の教育普及機能の効果的な向上を図る。

また、各学校の郷土学習支援事業での実施に加え、放課後子ども教室、放課後児童クラブにおいても積極的に利用促進し、各施設の収蔵資料及び地域資源、当市の自然・歴史・文化に関する学習機会の充実を図る。

さらに、これらの取り組みを円滑に進めるため、博物館・資料館活用に関する教員との研究会開催や新任教員の研修協力等、学校との連携を強化する。

◆事業計画

事業区分	事業内容	H28	H29	H30	H31	H32
ア. 学習プログラムの充実と体系化	各教科のカリキュラムに応じた体験メニューの開発	→	→	→	→	→
	出前講座の全市的な展開	→	→	→	→	→
	所蔵資料等を活用した教材化	→	→	→	→	→
	貸出用教材の精選と活用	→	→	→	→	→
	バス貸出の全市での実施	→	→	→	→	→
イ. 教育機関と連携した教育普及の推進	「手引き」の作成と配布	→	→	→	→	→
	郷土学習支援事業	→	→	→	→	→
	放課後子ども教室	→	→	→	→	→
	放課後児童クラブ	→	→	→	→	→
	教員との研究会開催等	→	→	→	→	→
(比和自然科学博物館)	・市外の学校との連携強化	→	→	→	→	→
凡例	----- 検討・計画	●—● 期間内実施	→ 継続的实施			



郷土学習支援事業（総領収蔵学習室）

②自治振興分野

ア. 市民による教育普及の推進

各館の教育普及機能の向上に向けて、自治振興区や研究団体、ガイド組織等の幅広い市民層との連携を進めるとともに、ボランティアスタッフの協力を得ることで、一人ひとりの市民が輝き、主役となる館運営を目指す。

こうした仕組みのもと、市民自身が講師あるいは話題提供者となり、本市の自然・歴史・文化等に関するさまざまな情報発信を行う講座等も開催し、「市民参加型」の教育普及の展開を図る。

強化する領域
 教育普及機能
 ×
 自治振興分野

イ. ボランティアガイド養成講座の開催

博物館・資料館活動に関心をもつ市民等を対象に、ボランティアガイド養成講座を開催し、教育普及活動への市民参画の間口を広げていく。

また、各館を活動拠点とするボランティアガイドによる、館内ガイド及び館外ガイドを積極的に展開する。さらに、館をボランティアスタッフ同士の交流の場とし、相互学習の機会を設けることで、市民と連携した教育普及機能の向上に向けた機運を醸成する。

市民が主役を演じることにより、来館者へ「驚き・発見・感動」を与える館活動を展開し、「市民参加型」「地域密着型」の博物館・資料館の達成を目指す。

◆事業計画

事業区分	事業内容	H28	H29	H30	H31	H32
ア. 市民による教育普及の推進	市民組織等と協議し、連携可能な体験メニューを開発	---	→			
	市民が講師・話題提供者となる講座等の計画と開催		→			
(倉田百三文学館)	・倉田百三友の会との連携	→				
(帝釈峡博物館展示施設時悠館)	・愛鳥活動(餌がけ)の実施	→				
(比和自然科学博物館)	・民間団体と連携した学習機会の提供	→				
	・自治振興区による「ちいさなおみせ」(ミュージアムショップ)の開催	→				
イ. ボランティアガイド養成講座の開催	ボランティアガイド養成講座	→				
	ボランティアガイドによる魅力ある教育普及活動		→			
凡例	----- 検討・計画	●——● 期間内実施	————→ 継続的实施			



市民を講師とした文化財ガイド養成講座(庄原市歴史民俗資料館)

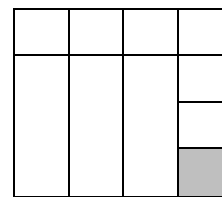
③産業振興分野

ア. 観光イベントへの参画

各施設の収蔵資料及び地域資源、当市の自然・歴史・文化の素晴らしさを観光資源として活かし、本市を訪れた観光客等に「驚き・発見・感動」を与えるための機会として、各種イベントを主催するとともに、外部イベントへの参画についても積極的に推進する。

国営備北丘陵公園やひろしま県民の森、道の駅等の観光・商業施設、あるいは各種観光イベントにおいて、魅力的なテーマを選定し、各館の紹介も含めた企画展示や出張展示を行う。

庄原市観光協会や各観光施設等と連携し、より一層のイベントの充実を図る。



強化する領域
教育普及機能
×
産業振興分野

イ. ボランティアスタッフによる館外活動

観光イベント等の機会を活用し、ボランティアスタッフの協力を得て出前講座等の館外活動を実施し、観光客等へ各施設の収蔵資料及び地域資源、当市の自然・歴史・文化をPRする。

ウ. ガイダンス機能の向上

市外からの観光客等に対する利便性を高めるための博物館・資料館へのガイダンス機能の向上を図るため、観光部局とも連携して案内すべき題材を精選し、観光客の行動拠点となる観光施設等へパネル・ポスター等によるガイダンスコーナーを設ける。

市内中心部の庄原市歴史民俗資料館内において、各館及び庄原市の自然・歴史・文化を総合的に案内する紹介スペースを設け、観光客等の利便性の向上を図る。

◆事業計画

事業区分	事業内容	H28	H29	H30	H31	H32
ア. 観光イベントへの参画	自主イベントの企画と実施	—————▶				
	観光イベントへの参画と出張展示	—————▶				
(西城収蔵学習室)	・丘陵公園でのたたら展示	—————▶				
(帝釈峡博物展示施設時悠館)	・「帝釈峡ウォーク」	—————▶				
(口和郷土資料館)	・備北丘陵公園での動態展示	—————▶				
	・「ふれあいの丘コンサート」	—————▶				
	・「ふれあいシネマ」	—————▶				
	・「手作り真空管アンプの会」	—————▶				
(比和自然科学博物館)	・カナリアの会の充実	—————▶				
	・「吾妻山グリーンラリー」	—————▶				
	・中国山地豊かな自然写真展(巡回展)	—————▶				
		—————▶				
イ. ボランティアスタッフによる館外活動	観光イベント等でのボランティアスタッフによる館外PR活動			—————▶		
ウ. ガイダンス機能の向上	観光部局と連携した案内すべき題材の精選	—————▶				
	観光施設等へのガイダンスコーナーの検討と設置		---	—————▶		
(庄原市歴史民俗資料館)	・庄原市全体のガイダンスコーナーの設置	---	—————▶			
凡例	----- 検討・計画	●——● 期間内実施	—————▶ 継続的实施			

第5章 事業評価の基準

1 定期的な客観評価

第1期計画では、事業の展開を、「事業実施計画」「事業の期間内実施」「事業の継続的实施」という3工程に区分し、計画期間内の実施スケジュールも記載した。

しかし、進捗管理及び計画見直しのための具体的な作業手順等を明記できておらず、毎年度末あるいは中間年等での定期的な客観評価が十分には行われなかったことから、進捗状況に応じた計画見直し等にもつながらなかった。

こうした反省を踏まえ、第2期計画においては、各館・支所・本庁において毎年度末の事業実績の客観評価を行い、庄原市博物館・資料館運営協議会と情報共有する。

さらに、中間年となる平成30年度に中間年評価を行うことで、進捗管理及び計画見直しを確実に実施する。こうした仕組みにより、計画期間内での目標達成を目指す。

2 事業評価の視点

事業評価の視点として、事業実績の客観評価を位置づける。第2期計画は目標達成に重点を置いて各事業を計画していることから、計画した各事業が進展することで確実に目標へと近づいていくと期待でき、事業の進捗状況の把握によって目標の達成度合いを客観評価することが可能となる。

3 PDCAサイクルの実践

毎年度の客観評価を行う際、「Plan（計画）」、「Do（実行）」、「Check（評価）」、「Act（改善）」のプロセスを通じて、各事業が目標達成の手段として実際に機能しているかを検証し、積極的に内容を見直すことで、精度を高めていく必要がある。

また、年度内においても、定期開催する庄原市博物館・資料館運営協議会をはじめ、各館・支所・本庁による連絡調整会議等の機会を活用し、当該サイクルを実践する。